

釣れ釣れなるままに

1996年思い出の釣行記 PART. 5

惨敗釣行記

鹿島釣狂

釣遊会第5回大会

☆開催日	平成8年9月8日
☆開催場所	庶野漁港～音調津港
☆入釣場所	オンコの沢
☆潮	21:38 122cm
	06:12 47cm
	14:33 111cm
☆釣果	アカハラ 290mm 1
	ハゴトコ 280mm 4
	重量 1520g
☆成績	合計点数 722点
	成績 19位

エサの仕込みは妻に命じて？

9月5日～7日に帯広に出張を命じられ、岩見沢に着いたのは7日の午後7時である。今日に限って集合は7時30分なので妻に手伝ってもらいながらの身支度である。

単身赴任で妻と離れて暮らすようになってから何かと私への面倒見が良い。釣用のイシ

ヨウ（イカゴロや撒き餌を触った手であちこち触りまくるものだからゴテゴテであり、洗っても臭いが染み付いている）も準備しており、バスの中での酒のつまみやおかず付き朝のおにぎりも用意ができています。

実は妻にはエサの買い出しも5日前にしてもらい、夕張まで届けてもらっている。先日の釣講座で、「カツオは5日前ぐらいに切り、カツオの血を混ぜて冷蔵庫で保存しておく、程よい状態になる」ことを示唆されていた。イカゴロは溶け過ぎてクターとなってしまうのは少し残念であったがこれもいたし方のないことである。

柳の下の2匹のどじょう？

今回の釣場範囲は庶野漁港～音調津港である。夏の休暇の間に仕掛けは十分すぎるほどに準備しておいた。釣場も今回は一度も入ったことのない目黒より奥に入ろうと考えて、本誌のバックナンバーを参考にいくつか入釣ポイントもチェックしておいた。しかし、この時期、2魚種を揃えるとなると大変である。バスの中での先輩たちの助言に心が揺らぐ。今までの4回の大会では自分としてはなかなか良い成績を取り、年間入賞もあるぞというスケベ根性もある。結局、一度入釣した経験があり、辺りの状況が少しは分かるオンコの沢に入ることにする。

釣遊会に入会したての頃、オンコノ沢第2覆道前に入り、豆腐型のテトラの上で1035点を取り6位に入賞したことがある。バスの中で詳しい状況を解説いただいて、今回はオンコノ沢トンネル手前に入る。

ねらい通りのアカハラはピンコ

00時30分、現地到着。誰もいない。高い防潮堤の上からアカハラねらいで天秤装着のイカゴロ仕掛けをドボンとやる。まもなく、ねらい通りのアカハラが来る。（ピンコだったのはねらいではないが……。カジカの薄いこの時期のこと、これでよしとしなければ）ハゴトコも来て、一応2魚種5匹は揃った。後は大きいものと入れ替えていくだけである。まだ潮が引けていないうちから、私が投竿している左前方の岩盤に漕ぎ渡って素晴らしい遠投を繰り返している釣人がいるが、彼も釣れていないようだ。背中に「名人会」の名前が入っているところを見るとこの場所での今日の状況はあまり良くないらしい。早速次のポイントに移動する。

ギョ、ギョッ！

オンコノ沢トンネル前の岩場である。岩場に入る途中、崩れ掛けた旧トンネルを潜り抜けるのは危険なことと、なんだか気味が悪いのとで海に突き出た岩場の下を海に漬かりながら迂回した。見た目はその岩場前が浅いように思えたが、思いのほか深く抉れていた。重い荷物を背負ったままだったので、岩場への上がり口で難儀をしていると先客が見えた。直ぐ近くだったので声を掛けようと思ったが、ここからでは相手を驚かすと考えて黙った

ままやっとの思いで這い上がった。

気配を感じたのか先客が振り替える！ぴょぴょんと2、3m跳び上がったように見えた。思いもよらない所から急に人間が現れたものだから、本当にびっくりしたのだろう。顔が青ざめている。しかし、みるみるその顔が赤くなり怒りの顔に変わった。やはり声を掛けておくべきだったか。僅かに薄明るくなってきたこともあり、キャップライトのスイッチも切ってあった。これも相手を驚かすことになった一因だろう。不本意ながら先客を驚かさず羽目になった。どうも、相すみません。ペコリ

彼はよほど私に腹が立ったのか、そんなに激しく驚いた自分にいたたまれなくなったのか、まもなく、黙ったままその場から去っていった。私は気まずい思いで彼の居たところに入釣した。(決して、その場に入りたくて驚かしてしまったのではないことを再度付け加えておく)

意を新たに、しかし

さて、大物、大物。

イカゴロ、マキエは私が撒かなくても先客がたっぷり打ち込んでいたと見えて、岩場が赤くなっている。(何度もしつこいようだが決して、その場に入りたくて・・・)海もなんだかイカゴロ色に染まっている。(コホン)丁寧に所々オキアミまで海に浮いているのが見える。(ゴホン)

しかし、上がってくるのはすべてピンコハゴトコである。3本の竿など扱うことはできない。2本だってままならない。よほど食いが立っているのか1本投げ入れれば直ぐにアタリである。そうこうしているうちに昆布取りのサイレンが鳴り、まもなく目の前に磯舟がやって来た。早々の退散である。先客は私に驚いたからではなく、その場所を見切っていたに違いない。ひょっとして大物をすっかり抜いてしまった後だったのかもしれない。釣り師というもの、そう簡単に自分の場所を諦めるはずがない。たかが驚かされたぐらいで・・・。

昆布取りの磯舟が

場所をまたまた変える。今度はオンコノ沢第2覆道前に移動する。1度入釣したことがあるのでスムーズに入ることができる。初めて来たときは、第2覆道手前の小川に架かった橋の下を潜り抜けて進むルートが分からず、それを捜して何度も行ったり来たりしたものだ。豆腐型テトラを行けるところまで行き、私としてはいくぶんおいしい思いをしたポイントに入る。昆布取りの磯舟がいるが、少しポイントとは離れているのでよしとしよう。仕掛けを投げ入れる。まもなく磯舟が近付く。豆腐型テトラに沿って少し移動する。またまた、磯舟が近付く。こんなことを何度か繰り返しているうちに終了の時間となる。

道路に上がってバスを待っている間、野幌釣り会の沢永氏に状況を開くが、あまり芳しくない。同じ所を釣り歩いていた名人会の佐々木忠義氏も同じような状況であることも聞

かされた。彼等ぐらいの名人級が駄目だったのであれば、私のなどのヒヨッ子にかかってくれる魚などいるわけがない。少しは諦めがつく。

したくない結果発表

投げやりに（勝手にせ〜〜い）優勝は岬トンネルに入った嵐氏で1361点。準優勝は境浜からオニ岩に釣り歩いた佐々木（秀）氏で1219点。3位は庶野漁港から美島間の堀氏で1184点。身長優勝はアブラコ49.9cmの佐々木氏であった。これまでのアブラコの最身長は前回の大会で私が上げた（ウォッホン）46.8cmであったのだが、年間魚種別身長賞の夢も露と消えてしまった。最もそのぐらいの大きさを年間大物賞の榮譽を取らしてくれるような甘〜〜い釣遊会の面々ではないのは承知しているのだが……。やはり残念である。ちなみに私の大会成績は722点の19位であった。

惨敗、惨敗。

釣遊会第6回大会

☆開催日	平成8年10月20日
☆開催場所	様似港〜エリモ港
☆入釣場所	ルランベツ覆道裏
☆潮	満潮 10:56 干潮 14:17
☆釣果	ハゴトコ 260 mm 4 重量 370 g
☆成績	合計点数 297 点 成績 27 位

ついでに第6回大会の報告もこっそりしてしまおう。

記憶にも呼び戻したくない。ハゴトコ4匹。釣遊会に入って最低の点数297点。順位はやはり過去最低の27位であった。これも4回大会でおいしい思いをした「柳の下の2匹のどじょう」をねらったのルランベツ覆道裏での惨敗である。これでは年間入賞もおぼつかない。今までの私の最低点数は釣遊会に入りたての平成4年度のカジカ1匹317点である。しかし、この時ははからずも下から数えて7番目のラッキー賞となり、商品化されたばかりの赤いカラー錘をたくさんいただいた。今回は口惜しさだけをいただいた。最後の第7回大会はやはり心機一転開拓者精神で挑もう。

ちなみに優勝者は1041点の堀氏。準優勝は947点の秦野氏。3位は896点の嵐氏。千点越えがわずか1名しかいなく、釣遊会としては珍しく低い点数での結果であった。身長優勝は38.9cmという同寸のアブラコを釣った堀氏と前野氏。トロフィーをどのように分け合ったかは定かでない。

今回は、『幌島超大物アブラコとの大格闘』乞うご期待。